

## 中国の石油輸入事情

中国は原油輸入に関し後発的であったために、多様な国から原油を輸入している。その中で、湾岸諸国（GCC+イラン、イラク）からの輸入が一番多く40%であり、2番、3番のアフリカ、ロシア・中央アジアの2~3倍である。

国別に最大の輸入国はサウジアラビアであり、この10年で急激に増加した。1990年以降外交関係ができたため、中国の需要増大に応えるように生産余力のあるサウジからの輸入が増大した。

次に古くから中国に輸出してきたのはオマーンであり、現在もサウジに次いで2番目に多い。オマーンにおける原油生産の7~8割は中国に輸出されている。これは古くから文化交流を通じて関係を深めたこと、オマーンがバランス外交で地域紛争に巻き込まれず安定していたこと、ホルムズ海峡の外側に位置し航路が安全だったことなどがあげられる。

今後は、イラク、UAEなどからの輸入が増え、さらにアンゴラ、イラン、ブラジル、ベネズエラ、英国などからも相当量輸入し、特定の国に偏ることなくバランスをとった輸入を行うとみられている。

中国は2017年にオマーンのドクム港開発に107億ドルの投資を行うことを発表し、また同年、紅海岸のジブチで海軍基地を開設するなど、中東地域を今後の重要な拠点と考えている様子が窺える。

(Jetro資料など参考)

【